

## 議員説明会 会議録

### 1 開催日時

令和6年11月8日（金） 午前10時00分 ～ 午前11時20分

### 2 件名

新花巻図書館建設候補地比較調査結果について

### 3 議事録

#### （岩間総合政策部長）

おはようございます。ご案内の時間よりまだ若干早いですけれども、皆さまお揃いでございますので、始めさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから、議員説明会を始めさせていただきます。本日説明の項目といたしましては、新花巻図書館建設候補地比較調査結果について、認知症高齢者施設グループホームなごみの譲渡等についてということでご案内をさせていただいております。申し訳ございません、本日、急遽ではございますが、あと1件、生活保護の関係について、皆さまに急遽ご報告しなければいけない事案がありますので、これを追加させていただきたいと思いますので、ご了承をお願いいたします。

それでは初めに、新花巻図書館建設候補地比較調査結果についてご説明させていただきます。

菅野生涯学習部長。

#### （菅野生涯学習部長）

おはようございます。生涯学習部長の菅野です。本日はよろしくお願いいたします。

生涯学習部新花巻図書館計画室所管の新花巻図書館建設候補地比較調査の結果の説明に入る前に、私の方から、これまでの取り組み状況と、今回この調査を実施した目的について、まずはご説明したいと思います。着座にて失礼いたします。

新花巻図書館の整備は、現在の花巻図書館が1973年、昭和48年4月に開館し、これまで50年以上にわたり市民に図書館サービスを行ってまいりましたが、施設の老朽化や狭隘化、蔵書が少ない、エレベーターがなくバリアフリーに未対応など課題となっており、これまで市では、市民からの意見等を踏まえた新花巻図書館整備基本構想を2017年、平成29年度に策定し、基本方針や建設場所に関する方針を定めているほか、建設候補地については、候補地を数か所選定した上で基本計画において定めるものとしております。

また、当該基本構想に基づき、新図書館における具体的なサービスの内容や施設を整備するにあたっての必要な規模や機能等を示す新花巻図書館整備基本計画を策定するため、新花巻図書館整備基本計画試案検討会議を開催し、サービスと機能については、おおむね方向性の整理が進んできているものと考えているところであります。

今回ご説明いたします新花巻図書館建設候補地比較調査は、市が作成いたします花巻図書館整備基本計画試案を精査するため、技術的な観点から必要な規模や機能等を検証するとともに、建設候補地2か所にかかる概算事業費の算定及びイメージパースを作成し、新花巻図書館整備事業を推進するための基礎資料とすることを目的として実施したものであり、この度、本調査が終了いたしましたことから、こ

の調査結果についてご説明させていただくものです。

以降、調査結果の詳細につきましては、担当課長から説明させていただきます。

**(岩間総合政策部長)**

梅原新花巻図書館計画室長。

**(梅原新花巻図書館計画室長)**

おはようございます。新花巻図書館計画室長の梅原でございます。

では、私からご説明させていただきます。資料については、事前にお送りしておりました概要版と本日配布いたしました調査報告書のファイルがございますが、事前配布しました概要版に基づいてご説明したいと思います。それでは着座にて説明させていただきます。失礼します。

では、2ページ目、最初のページをお開きください。新花巻図書館の整備につきましては、2017年に市民参画手続きを経て策定した新花巻図書館整備基本構想の建設場所に関する方針に基づき、赤枠で示す「花巻市立地適正化計画に定める都市機能誘導区域内に整備する」、「候補地を数か所選定した上で基本計画において場所を定める」ということを前提に、建設場所について検討を進めてまいりました。

3ページ目ですが、新図書館のソフト面につきましては、2021年度に設置いたしました新花巻図書館整備基本計画試案検討会議において、新花巻図書館計画室が整理した新花巻図書館整備基本計画試案にご意見をいただき、整理を進めてまいりましたが、その内容については本年6月15日号の広報はなまきでもお知らせしておりました。現時点においては、建物全体の面積は4,500平方メートル、そして開館時間は午前9時半から午後7時までとして、将来的な収蔵資料は70万冊を目指すこととしております。

次に、めくって4ページ、5ページ目でございます。これまでの経過ということで、2016年からこれまでの新図書館の建設候補地の検討経過になります。これまで行ってきました市民ワークショップや市民説明会などで、新花巻図書館の建設候補地はJR花巻駅前と総合花巻病院跡地の2か所に絞られてきたと考えておりますが、2022年度に開催いたしました市民説明会において、2つの候補地それぞれに建設する場合の事業費などの比較検討なしには建設場所について判断できないといったような意見もあったことから、2023年12月定例会において、市民の対話による意見集約を行うため、建設候補地比較調査の補正予算を議決いただき、本年1月から専門業者に調査を委託し実施したものです。

今後の予定といたしましては、11月10日以降に市内4地域でこの比較調査の市民説明会を開催いたしまして、17日から本比較調査結果資料を用いて、対話を通じてお互いの意見や考え方を共有する市民会議を全3回で開催する予定としております。市民会議は、状況により4回目を開催したいと思っております。予備日として2月の日にちも設定しております。

めぐりまして6ページ目からが今回の新花巻図書館建設候補地比較調査の業務概要となります。

なお、この概要版の右上のところに報告書の該当ページ番号を付しておりますので、詳細につきましては後で報告書の該当ページをご覧くださいと思います。

6ページは、本業務の業務概要を記載しております。

業務の目的は、先ほど菅野部長もご説明いたしましたが、新花巻図書館整備基本計画試案を精査するため、技術的な観点から必要な規模や機能等を検証するとともに、建設候補地2か所に係る概算事業費の算定及びイメージパースを作成するものです。

業務の履行期間は本年1月19日から10月15日まで、大日本ダイヤコンサルタント株式会社盛岡事務所と業務委託契約を締結し実施いたしました。

調査を実施するにあたっての業務の流れといたしましては、まずは新図書館の駐車需要推計をした上で、土地利用計画図や建物基本計画を検討し、それぞれの候補地に整備した場合の概算事業費を算出し、図書館事業費等の比較を行っております。

次の7ページは、駐車需要推計を行うための資料でございます。国土交通省都市局算定の「大規模開発地区関連交通計画マニュアル改訂版」及び平成19年2月1日経済産業省告示第16号「大規模小売店舗を設置する者が配慮すべき事項に関する指針」を参考に、花巻市の実情に合わせ、駐車台数を平日102台、休日126台必要と算出した上で、花巻市と人口規模が近く、新花巻図書館と同規模の図書館を整備した他の自治体の整備事例の平均台数が111台であることを踏まえ、新花巻図書館に必要な駐車台数の目安を120台としております。

次に、8ページ、9ページをお開きください。ゾーニングプランの検討を行うにあたって、駅前については、建物を3階建てにすると多目的広場に建物がかからないので、現在使っている広場の融雪施設の改修費が2階建てにする場合よりも低減できるため、2階建てと3階建ての案を検討いたしました。また、総合花巻病院跡地については、これまでご説明していましたが、土盛をしていない北側部分を中心に建物を建設することとして、2階建て以外に1階建てについても検討いたしました。

花巻駅前については、花巻まつりにおける山車の出入り、各種イベント、なはんプラザCOMZホールへの大型資機材搬入等の導線を考慮したほか、駐車場については、立体化する場合などの既存の駐車場の場所によって事業費が異なりますので、複数案検討した上で事業費を考慮し、案⑦-2のイメージパースを作成いたしました。

また、総合花巻病院跡地は、敷地北側の一部や東側の濁堀には土砂災害防止法と急傾斜地法による指定がございまして、建物の建築や人の誘導ができないということから、上部平坦地内で図書館本体、芝生広場、駐車場を整備することを検討したほか、宅地造成及び特定盛土等規制法により、建物を建てる場合は法面の改修が必要であり、これらを考慮した場合でも2階建てであれば、図書館や芝生広場を整備した上で駐車場も敷地内に十分確保可能でありましたので、案①のイメージパースを作成いたしました。

なお、本概要版では、表の赤枠のところですが、赤枠の駅前2階建て平面駐車場と病院跡地2階建てを掲載しておりますが、その他の案については同じ概要版の参考資料のところに添付しております。

では次に10ページをお開きください。こちらはJR花巻駅前候補地の土地利用計画図になります。新図書館の建物を、現在のスポーツ用品店の場所となはんプラザとホテルの間の多目的広場、こちらを一部使って2階建てで建設するという案です。駐車場につきましては、図書館の南側、この図面では左側に薄紫になっている部分ですが、そこに隣接して38台新設いたしまして、現在の花巻駅南駐車場第2駐車場についても、西側、図面では上の方になりますけども、西側の市道「大通り1丁目プラザ線」の一部を廃止して駐車場敷地として使用しまして、現状よりも60台の駐車台数を増やし、全体として98台の駐車台数を確保するものです。駅前については、既存の花巻駅南駐車場の稼働状況を確認いたしましたところ、収容力181台に対しまして60台程度の空きが日常的に見られることから、新たに98台の台数を確保することで駐車台数をカバーできるとしております。

なお、多目的広場の無散水融雪設備につきましては、新たな工事が必要ですが、駐車場を平面で整備することから、事業費は比較的低廉にすることが可能だとしております。総事業費は、JR東日本からの土

地購入費と既存建物の解体費、及び線路保守管理用の入口設置費を計上しまして、約 39 億 9,000 万円となっております。

次に、11 ページ目です。こちらは総合花巻病院跡地の土地利用計画図になります。

新図書館の建物を盛土していない北側、図面では右側のあたりですが、こちらで急傾斜地等の法規制がない場所に 2 階建てで建設し、南側部分を駐車場とするという案です。駐車場は、建物の南側に 118 台新設でき、芝生広場も建物に隣接して整備するものですが、北側や東側斜面は、急傾斜地崩壊危険区域及び土砂災害警戒区域となっております。現状では建物を建てることはできず、人の誘導も制限されております。また、東側斜面は花巻城の濁堀でございますので、新たに樹木を植えたりすることはできませんが、その保全のために芝生等で緑化するという、そういった案になっております。総事業費は、法面の改修のための小段造成や法面緑化の経費を計上いたしまして、約 36 億 3,000 万円となっております。

次に、12 ページから 13 ページ、こちらは、先ほどの土地利用計画を基に作成しました JR 花巻駅前候補地の 2 階建てのイメージパース外観でございまして、北側から見た鳥瞰図と、南東側なはんプラザ方面から見たアイレベルでのイメージパースになっております。

次に、14 ページ、15 ページ、こちらは、同じように土地利用計画図を基に作成しました、総合花巻病院跡地の 2 階建てのイメージパース外観になります。南東側から見た鳥瞰図、南西側駐車場から見たアイレベルでのイメージパースになります。

これらのイメージパースにつきましては、あくまでも現段階でのイメージとして描いてもらったものでございますので、今後設計に入ると変更されるものでございます。

次の 16 ページから 23 ページ、こちらについては、現在まで検討を進めてきました新花巻図書館整備基本計画試案を基に作成した新図書館の内観のイメージパースになっております。こちらは、どちらの建物になった場合も同じイメージ、現時点でのイメージでございまして、16 ページからエントランス・カフェラウンジ、そしてレファレンスコーナー、一般開架、子どもスペース、そしてスヌーズレンに対応したスペースや講座・集会・多目的ギャラリー、学習コーナー、賢治・先人・郷土コーナー、それぞれのものになります。先ほども申し上げたとおり、これは現段階でのイメージとして書いてもらったもので、外観を含めまして今後設計により変更となるものでございます。

次に、24 ページ目をお開きください。こちらは、今回の調査で算出した事業費の内訳表でございまして。

図書館本体の建設費の財源については、立地適正化計画に定めた都市機能誘導区域内に都市再生整備計画に基づく都市構造再編集中支援事業として実施される誘導施設及び公共公益施設の整備について、補助率 2 分の 1 という極めて有利な補助金の活用を見込み、残りの額 95 パーセントは合併特例債を活用することを考えております。

今回の比較調査において算出した候補地ごとの事業費を見ますと、共通の測量及び調査費や設計費、外構工事及び建築工事のほか、JR 花巻駅前については、駅前の多目的広場は無散水消雪施設の改修費や JR 東日本からの土地購入費と既存建物解体費、線路保守管理用入口設置費を含めて、総額 39 億 9 千万円となっております。その財源は、国庫補助金である都市構造再編集中心事業の対象経費 30 億円の 2 分の 1 で 15 億円。39 億 9 千万円から補助額を除く 24 億 9 千万円が市の形式的負担額となっております。

この市の形式的負担額の 24 億 9 千万円のうち、充当率 95 パーセントの合併特例債を活用した場合に、合併特例債の返済額の 70 パーセントの 16 億 5 千万円が国からの交付税措置されることから、市の実質的負担額は 8 億 4 千万円となります。

次に、総合花巻病院跡地については、同じように共通の経費として、測量及び調査費や設計費、外構工事及び建築工事のほか、こちらは、北側及び東側斜面の保全のための法面小段造成や緑化等の費用を含めまして、総額 36 億 3 千万円となっております。その財源は、国庫補助金である都市構造再編集中支援事業の対象経費 30 億円の 2 分の 1 で 15 億円。36 億 3 千万円から補助額を除く 21 億 3 千万円が市の形式的負担額となっております。

この市の形式的負担額の 21 億 3 千万円のうち、充当率 95 パーセントの合併特例債を活用した場合に、こちらの返済額の 70 パーセントの 14 億 1 千万円が国からの交付税措置されますので、市の実質的負担額は 7 億 2 千万円となります。

次の 25 ページ、こちらにつきましては、参考資料として、国の都市構造再編集中事業補助金の概要について資料を添付しております。

めくって 26 ページ目以降、こちらについては、今回検討した土地利用計画図について、前述した 2 つ以外、全ての検討案についてを添付しております。

以上で、新花巻図書館建設候補地比較調査結果について、概要版についての説明は以上でございます。

今後、10 日、日曜日から 4 地域で市民説明会を開催することにしております。10 日の日曜日はまなび学園、11 日月曜日が大迫で、12 日が東和、14 日が石鳥谷ということで、4 地域回って説明会をする予定でございます。

**(岩間総合政策部長)**

それでは、担当課からの説明が終わりましたが、この内容につきましてご質問等ございましたら、挙手の上、発言をお願いしたいと思います。

櫻井肇議員。

**(櫻井肇議員)**

ご説明いただきました。すいません、ちょっと細かく聞き逃したことで恐れ入りますが、駅前案の事業費についてです。建設費が 1 億 3 千万ということですが、JR への支払い総額というのは、ご説明あったようにお聞きしますけれども、総額いくらでしょうか。

**(岩間総合政策部長)**

梅原新花巻図書館計画室長。

**(梅原新花巻図書館計画室長)**

概算事業費の 39 億 9 千万円の中で、JR に支払う用地費は 1 億 3 千万円です。あと、線路保守管理用の入口設置費が 1 千万円。10 ページに細かい明細を載せておりますので、そちらもご覧いただければと思います。

**(岩間総合政策部長)**

櫻井肇議員。

(櫻井肇議員)

要するに、何を言いたいかということ、1億3千万円、これはまず土地代なわけですね。それで、前にも述べたかどうかちょっと私記憶ありませんが、閉店するということになるわけですね、スポーツ店が。それで、その補償はこれ JR がやらなきゃならないと思うんですが、その分を市が負担するというようなことは考えなくていいのかということです。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

補償費については、市に負担はないと聞いております。

(岩間総合政策部長)

櫻井肇議員。

(櫻井肇議員)

1億3千万円ということは、駅前案の総面積は分かりませんので、端的にお伺いしますが、坪あたりの単価はいくらになりますか。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

平米単価になりますけれども、平米単価で3万5,480円と計算しております。

(岩間総合政策部長)

その他、ございますでしょうか。

照井明子議員。

(照井明子議員)

これから市民説明会が行われるということです。それから、対話型の手法も行われると。11月17日以降ということですが、市民説明会の中で、そういうことはないと思うんですけれども、10ページ、11ページを中心に比較されたデータを見ますとですね、非常にまだ不十分というふうに私は思っています。というのは、駅前に設置する場合ですね、やはり立体駐車場が必ずセットという形にしなければ、なはんプラザでいろんなイベントがあります。例えば、宮沢賢治賞の授賞式があった時は、もういっぱいになるんですよね。ですから、やっぱり先々のことを見ますと、後付けで立体駐車場を作るということも考えられると思うんですけれども、やはり最初からここは立体駐車場を整備するという、そうした方針で提案されるべきではないかと。そのほうが市民にも分かりやすいんじゃないかというふうに思います。そ

うなると、事業費の額も相当な開きが出てくるわけですがけれども、それは市民の判断ということにはなると思いますが、やはりそうした、きちんとした説明をしていただきたいなというふうに思っております。その点についてはいかがですか。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

立体駐車場につきましても検討しております、参考資料に立体駐車場の配置案も載せておりますけれども、やはり平面の駐車場が使いやすいというお声が多かったことと、駐車場の需要推計で必要台数の目安が120台でしたので、一部市道を駐車場にすることでそこはカバーできるのではないかと考えました。今回、配置案は平面駐車場で出しましたけれども、立体駐車場についても事業費等の検討はしておりますので、今後、立体駐車場のほうが平面よりもよいというご意見が多くなつた時には、そちらも検討したいと思っております。

(岩間総合政策部長)

その他、ございますでしょうか。

照井明子議員。

(照井明子議員)

後出しではなくということですよ。せつかく作るのであれば、最初から。なはんプラザの利用者だってわかるんだし、どのぐらいの台数かは、もうわかっているはずなんです。だから、なはんプラザのマックスの状態、プラス図書館の駐車場という視点を持たないと、後から、足りませんでしたと、立体駐車場の予算を後付けして出しますと、そういう計画になると、非常に、市民の立場からすれば困惑すると思っておりますので、私は、駅前の説明をするならば、立体駐車場をセットにして、比較をさせ、市民に出すべきだと思っております。

それから、この対話型の手法です。対話型でどのような資料が出されるのか。この議員説明会がなされているこの資料だけなのか、それとも、これまでの試案検討委員会での流れ、報告ですね、そういったことも情報提供として出されるのか。それから、駅前に例えば設置をしてくださいという市民団体からの要望書、それから、市民からの設置場所についての署名活動の署名数もありますよね。そういったものが包括的に情報提供されてこの対話型という方法を取られるのか、その点について確認したいと思います。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

市民会議につきましては、市と協定を結んでいる慶応義塾大学 SFC 研究所からご紹介いただきました

同大学院特任教授の山口覚先生にメインファシリテータをお願いしております。具体的な進め方は先生のご指示に従ってということになりますので、現時点では詳細についてまだ把握してませんが、参加者の皆さんが知りたい情報はすべて提供する予定ですし、概要版につきましても、もっとわかりやすく、先生からこういうふうにしたほうが良いというようなお話を受けて、今までの試案検討会議や基本構想などのいろいろな資料を、先生にご相談しながら皆さんに情報としてインプットしていく予定です。

(岩間総合政策部長)

照井明子議員。

(照井明子議員)

この山口先生は、こうした市民活動の面については把握されているのでしょうか。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

すみません、市民活動というのは花巻市内でのということですか。それとも市民活動についての経験がいろいろあるということでしょうか。

(岩間総合政策部長)

照井明子議員。

(照井明子議員)

先ほど述べました市民からの要望書、それから市民からの署名の提出などについて、きちんと把握されておりますでしょうかということです。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

先ほどもご説明したとおり、市と協定を結んでいる慶応義塾大学 SFC 研究所から紹介いただいた先生ですので、花巻の地域資源の活用と対話を取り入れたスポーツ合宿のまちづくり事業などの地域おこし研究所の活動の指導を行ったり、大迫町の方でも町並み整備計画に関わったり、花巻には定期的においでいただいている方なので、状況についてはご存知です。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

**(市川新花巻図書館計画室副主幹)**

山口先生にはですね、これまでも打ち合わせをさせていただいて、これまでの状況についてはきちんとご説明しておりますし、これから参加者から質問なりある中で分からないこともあるかもしれませんが、そういうのをきちんと我々で山口先生にも情報を出して把握していただいた上でやっていただくような形になると考えております。

あともう1つ、先ほど駐車場台数 というか、立駐にするべきだというお話ですけども、きちんと調査を、この業者の方々にも現場で 調査をしていただいたり過去のなはんプラザの近接した駐車場利用状況を調べた上で、日常的に先ほどご説明した通り、60 台程度空いている状況がある、と。大きいイベントやった時は、もちろんまなび学園でも入れない時はございます。そういう時は一時的にあるんですが、そういうのも考えた上で、日常的に 60 台余裕があるということで 120 台を目安にするというご意見をいただいたわけでありまして。

そうすると、立体駐車場にするっていうのはですね、我々は立駐にすることで考えてきたわけですけども、署名とかご意見をいただいている中では、立駐は使いづらいついていうご意見が多いわけですね。そこを克服するためにどうするべきかっていうので、コンサルタントに考えていただいた中で、平面でできる案もできたもので、必ずしも駅前には立駐にこだわっているわけではありません。

**(岩間総合政策部長)**

照井明子議員。

**(照井明子議員)**

最後になりますけれども、今、市民の方々が様々な方法で意思表示をしております。これ民主主義だと思うんですね。やはりこうやって 1 つの事業に市民参画を積極的にしてくるっていうね。やっぱりそのところの市民の要望、署名、そうしたものは大事にこの市民会議の中で取り扱うべきだと申し上げて、終わります。

**(岩間総合政策部長)**

鹿討康弘議員。

**(鹿討康弘議員)**

はい、すいません。ちょっと間違っていたらごめんなさい。ちょっとわからないので。さっきの立駐と図書館の問題ですけど、立駐の案を見ると 3 階建ての案になっているんですね。2 階建てで立駐としているのはないですよ。見る限り、立駐の場合は 3 階建てになっているんですよ。これはなぜですか。

要は、これを見る限りは、最初から立駐の場合は 3 階建て案になっていると僕は読み解いたんだけど、この辺のところがよくわからない。で、仮に 2 階建てで建てておいて、後から立駐にするといった場合に 3 階建てじゃなくて大丈夫なんですか、って話なんだけど、なんか間違ってますか。質問わかりますか。

**(岩間総合政策部長)**

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

それは概要版の 8 ページ、9 ページということですよ、8 ページ、9 ページですよ、2 階建てと 3 階建ての考え方はですね、本体の考え方は、多目的広場の消雪装置までかかるか、かからないかで、それはそれで比較することを考えました。あと、駐車場はどの部分を立体にするかという組み合わせがあるわけですが、2 階 3 階とこれ全部やると組み合わせの数が多くなります。まずは、3 階建ての方がコストが安いということから、建物は 3 階建てで駐車場の配置や立駐を考えてきたということです。

(岩間総合政策部長)

鹿討康弘議員。

(鹿討康弘議員)

その前提にあるのは 120 台説ですよ、あくまでも。その 120 台で日常 60 台いけるから、120 台説が出てと思うんだけど、そこが、いわゆる賑わいづくりを目的の 1 つとしているとすれば、いわゆる JR 利用者が主であり、わざわざ車で来る方は 60 人以下で、60 以下の台数の枠内という考えですよ。あくまでも 120 台説を基本に考えるなら。前提に 120 台で足りるだろうっていうのがあるわけですよ。これ、足りないと思うんだけど。基本的に。いわゆるなんかのイベントがあった際には足りないことはおっしゃっていましたが、もう足りないと思う。足りないときどうするんですか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

現在の駐車台数が 181 台ありまして、それになおかつ図書館を作った場合に 98 台増えるということです。ですので、今よりもそれだけ増やして、図書館を建てた場合大丈夫じゃないかっていうことです。

あと、病院跡地につきましても 118 台ですね。病院跡地もそれぐらいの台数ですと、ただ、同じようにまなび学園でイベントがあれば入れないかもしれないねっていうのもあるんですけど。そこはきちんと調査した上での案であります。

なかなか難しいかもしれないですよ、すごいイベントが来たりとかですね。駅前だろうと病院跡地だろうと、駐車場が足りなくなるっていうことはあるかもしれませんよ。それはないとは言えないのですが、現段階でこう図書館を作った場合に、駐車台数は 120 台を目安にするべきだって出してきてもらって、それに基づいて配置を考えてもらったっていうことですので、ご理解をお願いしたいと思います。

(岩間総合政策部長)

鹿討康弘議員。

(鹿討康弘議員)

はい。ということは、市民説明会でも同じ説明になるということは、あくまでも現時点では可能性とすれば、将来の立体駐車場あるけども、現時点ではこの平の駐車場、新たに取得した駐車も含めて足りるという市側の見解で説明を進めていくということによろしいですか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

現時点で、将来の立体駐車場化も考えているかということ、現在は、考えていません。それは、その時点で考えた上で、今ある駅前の駐車場も途中で道路を真ん中なくして駐車場にしていますし、そもそもなはんプラザの東側の駐車場は商業ビルを建てる計画だったりしているので、変更というのはやっぱりその時々で、行政と市民の皆さんで考えてもらうというものになるかと思えます。

(岩間総合政策部長)

その他ございますでしょうか。

はい。小森田郁也議員。

(小森田郁也議員)

ご説明ありがとうございました。今、照井議員と鹿討議員からも立体駐車場の話などが出ておりました。先ほどのお答えの中で、市民からの声が高まるのであれば、立体駐車場ということもあるかもしれない、ということもありましたけれども、今、駅前案はここに載っているので10案、そして病院跡地の案は2案あるわけですけれども、この案のうちどれにしていこうかということのも今後開かれる市民会議で進めていくというような考えでいらっしゃるでしょうか、教えてください。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

これから行う市民会議では、基本的には今お示しした2案を基に対話していただこうと思っております。それぞれに対してのメリットとデメリット、デメリットに対する対策はどうするかというような話し合いをしていただきますので、デメリットについて話し合う際に対策としてそういったお話が出てくるかもしれませんが、そこについては対話の状況に合わせたいと思えます。

(岩間総合政策部長)

小森田郁也議員。

(小森田郁也議員)

はい。そうすると、この2案で話し合い、特に問題がない場合は、まずこの2案で進んでくということ

でよろしいですね。そうして、予備日まで含めて今後2月まで会議が予定されております。以前、この比較調査が始まる前だったと思いますけれども、いつまでに結論を出すんですかというお話を質問させていただきましたが、その際には今年度中というお話がありました。そのお考えは今のところ変更ありませんでしょうか。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

今、基本計画は試案なので、今年度中にそちらを案としてまとめたいということは変わらないです。

(岩間総合政策部長)

そのほかございますでしょうか。佐藤峰樹議員。

(佐藤峰樹議員)

基本的な部分だと思いますが、確認をいたします。総合花巻病院跡地の方ですが、図書館本体、そして駐車場の位置は盛土しているところだと思います。で、ここの地盤補強だったり造成工事、こういったものの経費はないんですが、そもそもあそこに建物を建てる上でそういったところの必要性はどうか。

今回出していただいたのは、法面の小段造成工 430 万ってことはありますけれど、盛土そのものに対しての補強、これは必要ないのか確認します。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

図書館の本体は、盛土をしていない部分です。北側の本体部分は、盛土していないので、杭を打つ本数などまだわからない状況です。駅前も同じですが、測量費という形では入っていますが、それを調査した上で、どの程度入れるかということになるかと思っております。盛土した部分というのは、駐車場と広場の部分になりますので、地下構造物があった部分が、すでに盛土している部分で駐車場にするところ

(岩間総合政策部長)

佐藤峰樹議員。

(佐藤峰樹議員)

そうしますと、この測量及び調査費、あるいはこの経費の中にそういった調査というものも含まれているのですか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

はい。その分も計上しております。

(岩間総合政策部長)

佐藤峰樹議員。

(佐藤峰樹議員)

はい、わかりました。では、調査をして、例えば施工あるいは補強が必要だとなると、この経費全体よりもプラスになるということでしょうか。

(岩間総合政策部長)

多田新花巻図書館計画室主査。

(多田新花巻図書館計画室主査)

今回、事業費の中に、先ほどありました「ボーリング調査」の費用としては、「計画及び設計費」ということで、土地利用計画の2段目にありますが、その中にボーリング調査というのが含まれております。その調査をまだ駅前も病院跡地も実施しておりませんので、どの程度の対策が必要になるかというのは、現時点で厳密に積算するのは難しい状況ではあります。ただ、難しいという状況ではあります、必要にはなるだろうということで、工事費の建築のなかに「図書館基礎工事」という項目があり、そちらに必要対策分の経費を計上しています。それぞれの項目にどういったものが含まれるのかは、報告書の後ろの方になりますが、細かく内訳を整理して費用計上しておりますので、そちらでご確認いただければと思います。

(岩間総合政策部長)

その他、ございますでしょうか。はい、伊藤忠宏議員。

(伊藤忠宏議員)

関連すると思いますが、概要の11ページでございます。建物本体については先ほどの説明にあったとおりだと思いますが、この配置案を見ますと、赤点線で土砂災害警戒区域とか、ピンク色の急傾斜地だったり、災害危険区域というのがたくさんあるように見えます。この本体を建てるにあたって、こちらの方も、危険区域にならないような対策も一緒になさるのかお聞きしたいです。こういった中にこういう公共施設を建てるというのはいかがかと思いますが、ちょっと聞きたいです。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

はい。そういった区域の中に新しく建物、公共の施設を建設するということはよろしくないという話は区域を指定している県の方からされていますので、その区域に当たらないような形で配置案を業者も考えております。建物本体は色がついてないところに配置しています。崖地、北側のところは触れないようにしています。東側の濁堀のところは、10メートル以上の高さの時には、間に小段、平場を入れなければなりませんので、そういった法面の対策は含めております。東側の斜面についての経費は計上しております。

(岩間総合政策部長)

よろしいですか。はい、羽山るみ子議員。

(羽山るみ子議員)

はい。今の件に関連してですけれども、法面小段造成工というのが430万、総合花巻病院跡地の方の経費として含まれておりますけれども、これはですね、図書館でなくても、どの他の公共施設が建つにしても必要な工事であると思うんですね。ですから、この比較資料にこれを入れるのはおかしいのではないかなという気もしているところですが、その点の考え方としてはいかがでしょうか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

この場所に建物を建てない場合はそのままいいということですが、この土地を利用して建てるということになりますと、必要な工事となりますので、必要な経費と考えております。

(岩間総合政策部長)

よろしいでしょうか。その他ございますでしょうか。はい、似内一弘議員。

(似内一弘議員)

1点確認します。今、候補地2つは、配置案7の2と、配置案1ということで花巻駅前と総合花巻病院跡地がありましたけれども、こちらのそれぞれの工事をした場合の工期、これに違いはあるのか、その部分をお伺いいたします。

(岩間総合政策部長)

多田新花巻図書館計画室主査。

(多田新花巻図書館計画室主査)

現段階で、両候補地についての工期、今回の業務委託の中で、工期の部分まではやっていないと、想定

していないというのですが、コンサルタントに確認しましたところ、現時点においてですが、両候補地同じということです。ただ、今後、設計だとかやっていきまして、図書館の形状あるいは敷地の使い方などが変わってきますと、やはり工期という部分では再度検討する必要があるかと考えております。現時点においては同じと考えております。

**(岩間総合政策部長)**

似内一弘議員。

**(似内一弘議員)**

今後のスケジュールに関連するのですが、合併特例債は令和12年度までということで、工期がどれくらいあるかによって変わってくるのかなと思っております。それで、例えばですが、総合花巻病院跡地は埋蔵文化財ということで、そういったものが出てくると工期の延長、こういったことも考えられると思いますけれども、これは令和12年度までに工期として終わることによって了解していいのかお伺いいたします。

**(岩間総合政策部長)**

梅原新花巻図書館計画室長。

**(梅原新花巻図書館計画室長)**

はい。現時点ではそのように考えております。しかし、先ほど申し上げたとおり、設計後、土地の形状についていろいろ出てくるかもしれませんが、現時点ではそのように考えています。

**(岩間総合政策部長)**

市川新花巻図書館計画室副主幹。

**(市川新花巻図書館計画室副主幹)**

文化財という点につきましては、病院跡地の方のお城の堀があります。文化財課の方で確認をしていますが、北側の端の方は城の濁り堀という堀の形状を保存すべき、ただ、もう形状がかなり変わっているので、残っている部分は景観を保全するような形で保存すべきではないかという見解ををいただいております。高い木とかはだめなんだそうですが、芝などを植えるような形で堀の形状を保全することは必要であろうということです。駅前につきましては、埋蔵文化財の指定区域ではないと確認しております。

**(岩間総合政策部長)**

その他にございますでしょうか。伊藤盛幸議員。

**(伊藤盛幸議員)**

私、今日しか資料を見れなくて、今こうやって見たところですけども、まず10、11ページで市民説明会に入るとということで、駐車場の話をすると、それぞれ造成工事等かかると思うんですね。10ページの場合は、市道を廃止して、この図面でいくと南側に一部市道が残っていますが、ここの青い部分を伸ばし

でも支障がないかどうかですね。併せて、両方ですね、病院跡地の場合でも駐車場造成工事はいくらかかると、これで説明するのであればですね、全体を見た方がいいような気がします、駐車場については25ページですか、計上可能と書いていますけども、ここ、入れなかったのはなぜなのかお伺いします。

**(岩間総合政策部長)**

市川新花巻図書館計画室副主幹。

**(市川新花巻図書館計画室副主幹)**

概要版10ページの、青の平面の駐車場の南側、つまり、図面で言うと左側のところもということですね。広げる可能性もあると思いますが、民間の土地の出入り、あるいは接道とか、まだそこまで確認しているわけではないです。

あともう1つは何でしたでしょうか。

**(伊藤盛幸議員)**

この時点で、駐車場を整備した場合の造成工事費とかも入れたらどうですか。

**(市川新花巻図書館計画室副主幹)**

それを含めた工事費も出すべきではないかというご意見ですか。

**(伊藤盛幸議員)**

そうです。

**(市川新花巻図書館計画室副主幹)**

現段階で、これ98台でいいのではないかという案なので、それ以上またやりますと、調査に経費や時間もかかりますので、今の段階では、これで市民説明をしたいと考えております。

**(岩間総合政策部長)**

多田新花巻図書館計画室主査。

**(多田新花巻図書館計画室主査)**

今、2点のご質問があったかと思います。1点は、概要版10ページの土地利用計画図におきまして、駅南駐車場第2の南側の白くなっている部分、ここはこのままでいいのかという趣旨で受け取りました。で、こちらにつきましては、建設部にも確認しました。ここまでの市道廃止は可能なのかというのも聞きました。

で、こちらについてはですね、隣接している南側、高源精麦さんがある辺りですが、で、こちらについては、今、接道に使われていることはないのですが、結構なスペースがありますので、将来的にもここに民家が建たないかという、それは、わからないと。わからない状況なので、そこまで市道を廃止してしまうと将来的に困る場合もあるのではないかと、ということで、今回は、その点を考慮した上で、ここにつ

いては廃止しない、という案にしたものでございます。

で、2点目ですね、駐車場部分も含めた事業費とすべきではないかということで受け取りましたけども、こちらにつきましては、駅前も病院跡地もですね、外構工事というのが、工事費の「土木」の中に「外構工事」という項目がありまして、そこに含まれております。

ただ、「外構」と言うといろいろありまして、フェンスだとか側溝だとかそういった雑多なものも入っていて、純粹に駐車場部分としてはじゃあどれぐらいかかるのかというのはですね、報告書の133ページを見ていただくと分かりやすいかなと思いますが、報告書の133ページの中に、「事業費総括表、表3-10」というのがございます。

で、その中に、土木工事①、②とオレンジ色の網掛け部分ですが、土木工事②の中に、外構工事、下の方にございます。その中に、「駐車場敷地内または隣接駐車場」とあります。「敷地内」と書いてあるのが病院跡地のこの駐車場を指しております。で、「または隣接駐車場」の隣接というのが駅前の図書館の南側にある、今、タケダスポーツさんの駐車場とかになっている部分の整備費です。で、「周辺駐車場」というのがもう1つございますが、これが駅南駐車場の市道廃止にかかる費用とか、そういった部分にかかる費用として、それぞれ計上して書いております。以上です。

#### (岩間総合政策部長)

伊藤盛幸議員。

#### (伊藤盛幸議員)

載っている場所はわかりましたけど、市民説明会にはこれないですね。こっちでいくわけですね。いろいろと比較資料10ページ、11ページで説明会された時に、細々言えばいろいろあります。病院跡地に芝生広場って最初なかったよな、なぜ必要か、とかいろいろありますが、それよりもまずは、この調査業務委託でいただいたこの成果品をしっかりと噛み砕いて説明に行ってほしいなど。コンサルがこういうふうに示したので、そうですっていう言い方ではなくて、コンサルからもらった成果品を自分たちで吟味して、これで行くんですよという説明をしないと、なんか他人事のような感じがしますので、くれぐれも説明の際は、コンサルの意見ですということではなくて、自分たちで噛み砕くべきだと思います。

関連しますが、今回の成果品についてどの程度市は意見を述べたのか。出されっぱなしで、はい、全部オッケーとしたのか。この部分についてはどうなんですかっていうことを突き詰めて、修正かけて、こういうふうにしてきたのか確認します。前のURに委託をした際に、納品された後にこれじゃうまくなかったという意見があったので、当局の方からですよ、なので、しっかりと吟味して自分たちのものにして、これで説明会に入るということをしていただきたいと思います。

で、質問は、意見集約のための資料ですよ、これね。意見集約するためにこれやりましたよね。意見集約に使うためにこの資料があるわけですよ。そのために、業務委託をして約1,800万だったと思いますが、対話型でワークショップやられるんでしょうけれども、その集まる方々がこの資料を理解するのに、やっぱり相当時間かかるんじゃないかと。そうすると、3回とか、あるいは予備日を見て4回見ているんですが、大丈夫ですかって、しっかり理解をした上で、あるいは現状も把握していただいた上で進めるべきだと思いますけど、4回でポンと決めてしまっているのかっていう部分がちょっと心配なんですけど、いかがでしょうか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

はい。3回か4回かっていうのはありますが、これもその山口先生にお話を聞いた上で、まず3回、あるいはやはり予備日もあった方がいいんじゃないかっていうことでありますし、十分に情報をしっかり共有しながらということですので、1回の会議の時間も実は4時間、1時から5時までという、長いぐらいの時間なんですけど、山口先生はやっぱりそれぐらいの時間を取って、しっかり理解していただいた上でやるべきだということで、先生のご指導でやっておりますので、そこはしっかり進めたいと思っております。

また、調査報告につきましても、コンサルから出されたのをそのまま鵜呑みにしてるわけではなくて、例えば事例としては、11ページの急傾斜地崩壊区域ですが、これにつきましても、うちの担当もきちんとコンサルタントと一緒に県の担当に行ってヒアリングをして確認をして、やっております。

(岩間総合政策部長)

伊藤盛幸議員。

(伊藤盛幸議員)

ファシリテーターの先生とはですね、十分な打ち合わせをして進められるんだろうなというふうには思います。で、この3回、4回、あるいはもう1回あるかもしれないけども、そういうような形の中でどのように結論を導こうとしてるのか、絵を描いているのか。今お話できれば。できなければいいです。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

今回は対話型の市民会議で、2か所の建設候補地について、皆さんにそれぞれの土地のメリットとデメリット、あとデメリットをどのような対策で変えていくとか、そういったようなそれぞれの場所についての意見をいただいて、市民会議で場所について内容をまとめたものを、後々、市のほうで、議会にもお諮りしながら、情報を共有しながら決めていきますので、市民会議の中でどちらかに決めるものではないと思っています。

(岩間総合政策部長)

伊藤盛幸議員。

(伊藤盛幸議員)

いや、意見集約ですって先に断ったのはそこなんですよね。意見集約ができないので、そして市民説

明会の中では、比較検討資料がないと判断できませんよってという意見があったので、これをやりますと。で、できたものですから、これを基にして対話型で市民会議の中で意見集約していくと理解をしておりますが、今のお話ですと、どちらかという意見集約はしないということなのですか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

これまでも我々もお話してるのですが、全員がこっちとはならないんじゃないかっていうようなお話もしてありました。で、この資料に基づいて意見の集約を図っていくわけですけども、それをその専門家の山口先生をお願いしてファシリテートしていくわけですけども、そういう中でどうなっていくかっていうのは我々も分からないところがあります。そこは、山口先生がこれまでやった経験、色々、学校の立地場所などをですね、対話で意見を整理してきたなどという例を見ておりますけども、そういう中でどのようにやっていくか。

そこはそのファシリテーターの山口先生にお任せして集約を図ってってもらおう。その中でその資料がきちんとか明文化されていくわけですけども、それに基づいて行政としても、当然議会の皆さんにもお知らせしますので、そういう中で皆さんと一緒に考えて、方向性をまとめていければいいなと考えているところです。

(岩間総合政策部長)

その他ございますか。高橋修議員。

(高橋修議員)

率直に見てですね、この11ページの総合花巻病院跡地ですけど、周りにピンク、赤と、いろいろ色付けされていて、そもそもこんな崖っぷちに建てる必要があるのかなと、それは思います。で、まなび学園、すでに災害危険区域に半分ぐらい入っていますが、この状態の方が問題あるんじゃないかと、この資料を見て思います。その点について、もし市民から聞かれた場合は、どう対応されるのでしょうか。

(岩間総合政策部長)

市川新花巻図書館計画室副主幹。

(市川新花巻図書館計画室副主幹)

まなび学園のところは区域に入っていますけども、これはいわゆる既存不適格という、法ができる前にできているものについては、新たに建てない場合は大丈夫ということになっていますし、この具体的に、11ページのもので、紫の濃いところが対象になっている区域です。そして、その周辺に影響を与える区域、そしてその次に危険になる可能性がある区域っていう最も薄いところがですね、そういう区域になっています。ただ、その区域に新たに建てることはできないという現在の法律にはなっているということです。まなび学園の場所には、まなび学園を壊した後に建物を建てるということは現段階ではで

きないということでご説明をしていきたいと思っております。

(岩間総合政策部長)

高橋修議員。

(高橋修議員)

ええ、そうだと思います。質問ではないですけど、重複しますけども、あえてこの危険区域に近寄ったギリギリのところにて建てる必要性は私はないなという印象を受けました。以上です。

(岩間総合政策部長)

菅原ゆかり議員。

(菅原ゆかり議員)

ご説明ありがとうございます。今回のですね、調査結果を見まして、まずは外観等が出てきて、すごく嬉しかったなっていうのがまず率直な感想でございます。

それですね、今、様々議員の皆様からお話ありましたけれども、予備日を入れて4回の説明会を行う、また4時間近くこの土日を含めてお話を聞くこととなりますけど、例えば場所、どこで行うのかっていうのはもう決まっているのでしょうか。その4回の説明会の場所、もしわかっていたら教えてください。4回。3回ですか。予備日含めて4回ですけども。お願いいたします。

(岩間総合政策部長)

梅原新花巻図書館計画室室長。

(梅原新花巻図書館計画室長)

市民会議の場所です。よろしいですね。市民会議は予備日も含めて全てまなび学園を予定しております。

(岩間総合政策部長)

菅原ゆかり議員。

(菅原ゆかり議員)

はい。例えば大勢来た場合、マックス何人ぐらい入るお部屋を準備する予定なのか。お部屋、例えば相当な数来るとも考えられますけれども。市民会議のほうでしたね。すいません。であれば、まなび学園で大丈夫ですね。はい、すいません。勘違いしてました。ありがとうございます。

(岩間総合政策部長)

そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、1項目目の新花巻図書館建設候補地比較調査結果については以上をもちまして説明を終了させていただきます。